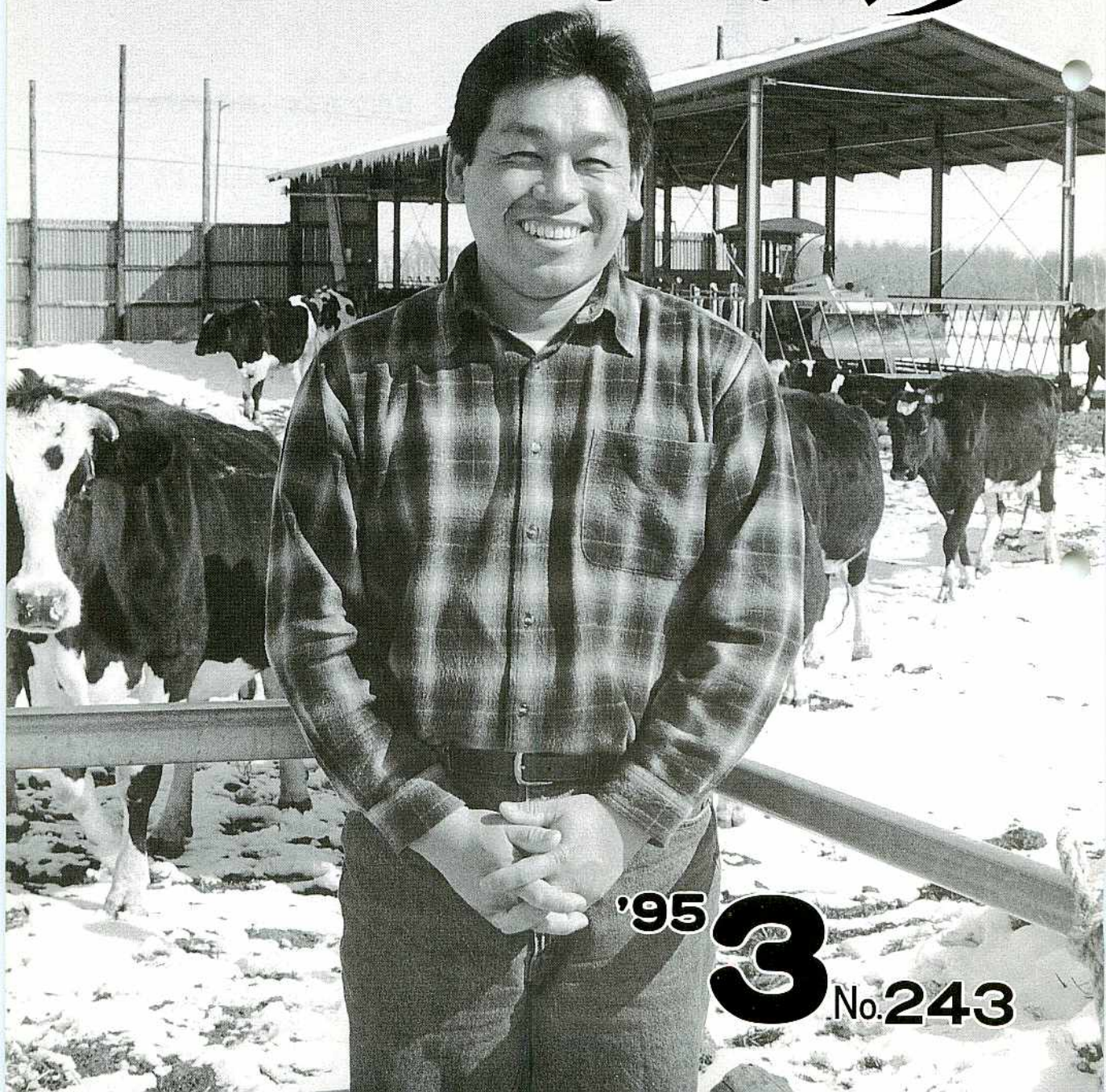


のうきょう まがしづ



'95

3

No.243

のうきょう ちがいつ

春三月、雪解けの遅い
根室地方にも一歩いっば春が
近づいてい



もくじ

- 3 ——— 〈未来を担う若者〉
自由があるから農業が好きだ
- 4～5 — 〈営農技術〉
初産牛の管理に注目しよう
- 6 ——— 〈わが家の人気者〉
ひょうきんポーズでハイチーズ!
赤波江 優一くん(2歳7カ月)
- 7 ——— 開町50年を祝うなかしべつ冬まつり
- 8 ——— 熟年会冬期研修会
- 9 ——— 〈組合長日誌〉
前向きな姿勢で心新たに
- 10 ——— 乳牛改良同志会第24回定期総会
- 12 ——— 第5回中標津冬まつり
- 13 ——— 〈ミルクタイム〉
将来の素晴らしいパートナーを
- 15 ——— 〈理事会の経過〉
第15回理事会
- 17 ——— 〈暮らしの知恵袋〉
チーズを考える
- 18～19 — 今月のフォトアルバム
- 20 ——— 2月の組合日誌

あす 未来を 担う若者

南武佐 佐藤幸一さん(31歳)



兼業メリコを最大限に活用したいと話す幸一さん

「来年からは経営移譲で自分が経営主となる。不安もあるが、その半面楽しみも大きい」と話すのは佐藤幸一さん、三十一歳。現在の経営主は憲治さん六十一歳で、四十六畝の経営面積（内借地十四畝）に乳牛四十二頭を飼養し、馬鈴しょ十五畝を作付する酪農畑作兼業農家です。

ようだ。「サラリーマンもそうだろうが、バイトに通っている時は時間に拘束され、与えられた仕事を早く終らしても帰る事も出来ないし、人から命令され、

土づくりを
基本においた
農業

自由があるから農業が好きだ

幸一さんは、武佐小中学校を卒業後、中標津農業高校へ進学。「子供の頃から（小学校三年生くらい）農業に接し、毎日牛舎に行き仔牛の世話をしていたし、農家に生まれ、それがあたり前だったので何の抵抗感もなく、すんなり農業高校を選んだ」という。

高校を卒業後は、まだ父母が若かったせいもあり、家業を手伝うかたわら約五年間アルバイトに専念。農業開発公社の草地改良や、冬場はカーショップなどでバイトしたそうだ。

しかし、このバイトが幸一さんにとって農業を職業にする事が一番と、決定づける要因にもなった

いやな事でもやらなくてはならない。そんな枠にはまった仕事にいやがさした。酪農だと朝晩の搾乳は毎日休みなくあるが、その他は、ある程度自分の自由に時間がつくれるし、収入だって頑張っただけ自分のものになる。だから農業をやるのが一番」と幸一さんは話す。

また、農業にはおもしろみがあるという。特に馬鈴しょでは、春に種を蒔き、芽が出て夏には花が咲き秋には収穫。約半年間でその年の答えが出る。また、畑作も酪農も季節間ごとに仕事の変化があり、サラリーマンには味わえない、何ともいえないおもしろさがある。



今、幸一さんは兼業メリコを最大限に活用し、土づくりに取り組み中だ。「化学肥料依存型の農業では、将来かならず先細りになる。健康な牛作り、馬鈴しょの安定収量を目指すためには、有機土壌が絶対不可欠」と強調する。

奥さんの直美さんとは、パーソナル無線の空中ランデブーで知り合い結婚。長男・克幸君八歳、次男・史弥君六歳の良き父親としても活躍する幸一さんです。

初産牛の管理に 注目しよう

牛群の中でも特殊な牛達、それが初産牛です。初産牛には経産牛とは異なる管理が必要です。十分な管理で、初産牛に気持ちよく働いてもらいましょう。

初産牛は能力が低い？

よく、「今年は初産牛が多いから乳がでない」といったことをうかがいます。これはある面で当たっています。しかし、低乳量と低能力は同じではありません。確かに、牛群内での平均乳量が一番低いかもしれませんが、遺伝的には最も改良が進んでいるのです。

自分の家の初産牛の能力が十分に発揮されているかどうかを簡単に知ることが出来ます。乳検情報「検定成績表（牛群）」の中の「年間三百五日成績」を見て下さい。（表一）

表1 年間305日成績

年 305日 成	間 日 績	頭 数	240日～305日間成績			
			乳 量	乳 脂	蛋 白	補正乳量
1	産	15頭	6264kg	4.10%	3.24%	7856kg
2	産	11	9132	3.93	3.13	10227
3	産以上	30	9729	3.95	3.15	9963
平均又は 合計		56	8683	3.97	3.16	9450

この中で、乳量の欄は、通常初産へ二産へ三産以上となりませう。次に、右の補正乳量を見て下さい。もし初産牛の能力が余すところ無く発揮されていないなら、初産へ二産へ三産以上となるはずで

しかし、現実には初産牛の補正乳量が一番高い事はまれです。なぜ初産の力は発揮されないか

①環境の変化
それでは、なぜ初産牛の能力は発揮されていないのでしょうか。

②育成の問題
初産牛は、分娩と同時に全く異なった環境に入れられます。（表二参照）

これらのことは、牛達にとって非常に大きいストレスとなっています。

表2 初産牛の受ける環境の変化

分娩前	分娩後
外の良い換気	→ 換気不足の牛舎内
同年同士の自由な行動	→ 怖い姉さんがいっぱい
平らな地面	→ 初めてのスタンション
ロール・乾草を自由食べる	→ 恐ろしい溝（尿溝）
大きな水槽	→ 見たことも聞いたこともない餌
一日好きなことが出来た	→ 飲み方が良く分からない水飲み器
	→ 一日2回変な機械で搾られる

乳牛改良同志会からお知らせ

二万五千元

せしけいしん!

乳用牛市場出品牛の毛刈りの実施

中標津乳牛改良同志会では、乳牛の有利販売を目的とした毎月開催される乳牛セール出品牛について、農協と連携をとり、毛刈りを実施することと致しました。

これは出品者の希望によるものとなりますが、同志会員以外の方でも対応致しますので、同志会支部長、または農協畜産販売課へ申し込んでください。

多数の方が利用されるようお知らせ致します。

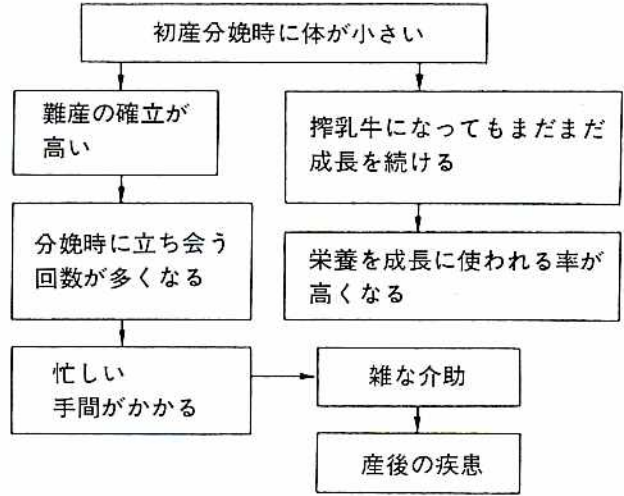
●毛刈り料：一頭五千元

(税込み)

●申し込み：各地区同志会支部長または畜産販売課

●申し込み牛は、毛刈り前にきれいに洗っておいてください。

図1 分娩時に体が小さい事による影響



育成が十分に成長せず、分娩時に体が小さいと、いろいろな問題を引き起こす原因になります。

(図一参照)

体が小さいと採食量が少なくなります。栄養価の高い、良い餌(手持ちの一番良いサイレージなど)を与える必要があります。

③分娩前の管理

初産牛といえども、分娩前二カ月は、普通の乾乳牛となら変わらりません。分娩後に備えて馴らし

● 育成は大きく育てる。
● 農協だより十一月号を参考にし、育成牛の飼養管理を行ないま

産牛の管理を行ないましょう。
● 育成は大きく育てる。

初産の管理のポイント

以上のことを念頭に置いて、初産牛の管理を行ないましょう。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

与をすると、成長分の栄養が足りなくなり、順調に増体しないということが起こります。このことが、いわゆる二産目の燃えつきの原因となります。

表3 エネルギーの消費順位

乾乳期	泌乳期 (経産牛)	初産牛
1 維持	維持・妊娠維持	維持・妊娠維持
2 妊娠維持	泌乳	成長 (増体)
3 成長 (増体・乳線)	BC	泌乳
4 BC	繁殖サイクル	BC
5 繁殖		繁殖サイクル

初産牛は、経産牛よりも、成長の分だけ余分に栄養が必要となる。

3カ月予報
北海道地方長期予報

日本気象協会北海道支部



気象概況

天気は、周期的に変わります。

この期間の平均気温は高く、降水量は平年並みの見込みです。

三月

低気圧と高気圧が交互に通ります。

天気は周期的に変わります。

気温の高い日が多い見込みです。

四月

高気圧と低気圧が交互に通ります。

天気は周期的に変わります。

気温の高い日が多い見込みです。

五月

天気は、周期的に変わります。

気温の低い日がある見込みです。



こうやって雪かきもちゃんどできるんだよ！

わが家の人気味

ひょうきんポーズでハイチーズ！



南依橋 赤波江信二・縁さんご夫妻

まさかず
長男 優一くん(2歳7カ月)

ただいま、やんちゃでワンパク盛りの元気な男の子は、赤波江信二さん宅の長男・優一くん(二歳七カ月)。
カメラを向けると、ちゃんとポーズをとってくれる所は、本当にカワイイのです。どうも写真をと

と、外でオモチャの乗り物に乗っていて、頭から転んじやった」とその時の様子をちゃんと話してくれました。
お話しも上手で、たまに出てくる言葉が妙に大人っぽくって、びっくりさせてくれる、おちゃめさんなのです。
お父さんの信二さんが外に出よ



いのししくんと一緒に三ツコリ

られるのが好きなようで、色々なひょうきんポーズで「とって！」とリクエストされちゃいました。「ひょうきんな所は、お父さん似かな？」なんてお母さんの縁さんも笑います。
元気っ子のしるしなのか、おでこに小さなキズがあったので、優一くん、「どうしたの？」と聞く

うとすると、「一緒に行く！」とはりきる所をみると、やっぱり外で遊ぶ事が一番楽しみなようです。いつもは、大好きなおじいちゃん、おばあちゃんにくっついて、外に出る事が多いようで、雪かきなんかも手伝いできる、おりこうさんなのだそう。
弟の優乙くん(三カ月)が生まれてから、ちよっぴりヤキモチもやいたそうですが、おムツをもってきてくれたりなど、優しいお兄ちゃんな面もできてきて、お母さんもニッコリかな。
保育所へ行くのも、もう少しという優一くん。きっと持ち前の明るさで、たくさんお友達ができることでしょうね。



色んなポーズで笑わせてくれる優一くん

第二十回なかしべつ冬まつりが二月十一、十二日、中標津町丸山公園で開催され沢山の人が賑わいました。



開町50年を祝う なかしべつ冬まつり



婦人部、青年部とも寒い中、消費拡大PRに力をいれました



J A青年部、婦人部 消費拡大PR

今年、中標津町開町五十年にあたり、冬まつりは記念事業の一つとしても行なわれ、イルミネーションで作られた「MY TOWN N50」の看板も設置され、会場には、小学校から高校、ファミリー、各企業で作成したアニメの主人

公や、趣向を凝らした雪像が並び、見物客を楽しませました。

前夜祭では、開会式のあと雪像の引き渡し式、表彰式に続き、七百五十発の花火が打ち上げられ、丸山の夜空を色鮮やかに飾りました。

農協青年部、婦人部は地元農畜産物、乳製品消費拡大PRの目的で出店部門に参加。

青年部は例年好評のサガリ牛串をメインに、なかしべつファーズ(株)商品のいも串、チーズオゾンポテト、いももちを販売、またケファイアオーレの試飲PRも行ないました。

婦人部は本まつりから参加し、評判の良いサンギ、芋団子フリッター、野菜スープの美味しい芋団子じるなど味自慢料理を販売。

約三時間ほどで完売になるなどの大盛況となりました。本まつりには、スノーホックケー大会、人間カーリング、小学生対抗雪合戦、カラオケ大会など、さまざまなイベントが繰り広げられました。

日頃の趣味、活動を披露

衣装もあてやかに数々の踊りなどが披露されました



熟年会冬期研修会を開催
ゲートボール大会で熱戦



予選を終えてひと休み、試合をふり返り話しもはずむ

中標津町農協熟年会冬期研修会が二月九日～十一日、斜里町ウトロ・知床第一ホテルで開催されました。

熟年会では春、秋、冬と年三回の研修を行なっていますが、例年特に冬期研修会には参加者が多く、今年は百二十一人の会員が参加し、二泊三日の楽しい研修を過ごしました。

朝十時、大型バス三台が各地区集合場所へ送迎、根北峠を走り一面流水に埋まったオホーツクの海エゾ鹿、オジロ鷲を車窓から眺め

ウトロに到着。

午後六時から、土井上会長の挨拶で研修会の幕開け、農協・浜谷営農部長のJA事業状況報告、乾杯で宴会が始まりました。

また、鈴木吉三前会長の長年に亘るご苦労に対し、熟年会から感謝状、金一封が贈呈されました。

その後、芸能発表大会が行なわれ、この日のため練習を重ねた四組の歌、詩吟、舞踊が披露され楽しい一夜となりました。

翌日午前九時からゲートボール大会を開催。大会参加希望者六十七人がチームのクジを引き九チームを決定、二コートに分かれ予選決勝と延十三試合が行なわれ、一位から九位が決定、上位三位まで金、銀、銅のメダルが贈呈されました。ゲートボールに参加しない人は、カラオケルームで歌の練習をしたり、各部屋で交流を図っていたようです。

午後六時から、第二弾の宴会、自由参加の芸能発表やオーロラファンタジー見学（自由参加）が行なわれ、研修会の最終日を楽しく締めくくりました。

前向きな姿勢で心新たに

今冬に入って以来、一番の吹雪に数日に渡って見舞われました。

道路の不通、飛行機の欠航などにより、予定されていた行事や、日程が実行出来ない事も起きました。

何事も人の予定したものは、スムーズにゆくものと思いがちでしたが、自然の猛威を前にして人間の無力さを改めて痛感しました。

同時に人間の科学進歩への過信、日常生活のおごりを戒められた様な数日間でもありました。

時として自然は色々な形で力を発揮して人間の力に対する、おごり、過信に対して反省を求めてくる様です。根室の自然風土に恵まれて、生かされている人間、農民である原点に戻って、心新たに日常をおくりたいと思いました。

吹雪が止んでから後、春を思わせる様なおだやかな日々が続き、三月を迎えました。

三月は卒業の時でもあり、新しい巣立ちを控えた、それぞれの人生の大きな節目でもあります。

若い生命の青春の三月を眺めながら、人生に疲労を覚え、澀のたまりつつある我々もまた、新たな躍動の三月を迎えたいものです。

人生の越し方を思い出して見れ

●今月のたより……

組合長日誌

代表理事 組合長

三友 盛行



ば、三月は卒業の喜びと安堵と、新しい人生への巣立への緊張と希望に満ちた月でした。

しかしながら、人は弱い者で希望と緊張と意欲は日常の忙しきの

中で間もなく、色褪せてしまいがちです。そして、気がついた時には日常に流され、周囲に同調する進歩と意欲のない日々の積み重ねが当たり前になってしまいました。

私自身を振り返ってみれば、憧れの北海道、結婚、入植と懸命に生きてきたはずでしたが、ふと何かの機会に立ち止まり、省りみるとき活き活きとした自分でなく、ただ忙しいのみの潤いの無い、日常を見て暗たんたる思いを繰り返して来ました。

組合長になってからも新しい気持ちで出発したはずでありながら、日常の忙しきにかまけて、流されている自分にほぞをかむ思いです。

日常の不備を省り見る機会には総会であり、懇談会、役員会などです。組合長、職員一同毎日を尽くして働いているつもりですが、日常業務の忙しさの中で前向きな姿勢、前進を求める気持ちに欠けてしまう様です。機会ある毎に、初心に戻り前向きに励みたいと思います。

三月はまた、税金の申告、乳価

の決定される大切な月でもあります。昔、役場にお世話になり入植した時に担当の方から、早く税金の払える農家になって下さいと励まされました。税金を納める事が出来る様になり、ようやく一人前の酪農家になれたという安堵と、納税の重さを思うとき、複雑な思いをする月でもあります。





第24回 定期総会開催される

中標津乳牛改良同志会 (弾正原正
会長、会員数102人)の通常総会が、去る2月4
日J A中標津大会議室で開催されました。



正藤賢司氏を議長に活発な意見が交わされた総会

蛋白量1,000^ポの表彰 セール牛の毛刈りを計画

総会に先立ち、六年度の高能力牛、体型審査、共進会出品などで高成績を修めた会員の表彰が行なわれ、その後、佐久間中標津町助役、鈴木J A副組合長など、来賓の祝辞が行なわれ、武佐支部の工藤賢司氏を議長に選任し、六項目の議案について活発な意見が交わされました。



高成績を修めた会員の表彰が行なわれました

特に平成七年度事業計画については、

一、審査講習会(バーン、ミーティング)について

本来の趣旨から大きく外れることなく、なおかつ多くの参集者を求め、内容について例年以上の検討を行なう。

二、高能力牛の表彰について

乳価に蛋白が大きく影響する時代になるので、あらたに蛋白量千ポの規定を設ける。

三、府県消流対策について

乳牛の個体販売については、農協と連携をとり府県の購買者とのつながりを密にすると同時に、新規開拓も行ない、有利な個体販売を行なう。また、地元乳牛セール出



会の活動を真剣に検討する会員

品牛について毛刈りを実施出来る体制をとり、附加価値を高めて行く。以上の事が主に協議され、このほかについては、例年通り、イ、中標津B & Wショーの開催。ロ、根室ホルスタイン改良協議会関係事業への参加、協力。ハ、各種講習会、研修会の実施。ニ、中標津ホルスタインの宣伝、広告。ホ、反省会の開催。などについて六十五人の出席者により、提出された全議案が承認されました。

青年講座

「ゆとり」を 考える

まず「生きている」
から始まる

青年部、フレッシュミセス
とのディスカッション

「ゆとり」を考える青年講座が二月二十日、農協大会議室で開催され、講演や青年部、婦人部（フレッシュミセス）によるテーブルディスカッションが行なわれました。



2時間ねむさを忘れる講演を行なってくれた坂本先生

講演は、「二十一世紀のライフスタイル」。親、息子、嫁との明るい二十一世紀をテーマに北海道文理



明るい雰囲気の中行なわれたディスカッション

科短期大学学長・坂本与一氏を講師に行なわれました。

坂本先生は、昆虫学の権威者で「生きている」事の素晴らしさ、親と子の絆の大切さを昆虫を例に話されました。

続いて、青年部員とフレッシュミセスが講演のテーマをもとにテーブルディスカッションが行なわれ、嫁さん側から見た農家の生活、嫁と姑、親と息子の考えの差異など、さまざまな角度から意見交換が行なわれました。

サイレージ用とうもろこしのマルチ栽培を共同利用体系で取り組んでいるSCM利用組合（十六戸、中司哲雄組合長）は、丸三年の活動で、とうもろこしのは種と収穫のみならず、牧草の収穫とサイレージ調整まで手がける粗飼料生産集団として、着実に成果を上げてきています。今回、この間の活動成果を「平成六年度農業機械効率利用実践研究会（三月一日札幌・北海道農務課主催）」において優良事例発表しました。当日は多数の参加者を前に、中林忠雄SCM副組合

機械共同利用で優良事例発表

長より「集落を越えた仲間でも低コスト飼料生産システムづくり」と題して発表が行なわれました。

この発表に対して、根拠農試・犬塚専門技術員より「SCM利用組合は、新技術であるサイレージ用とうもろこしのマルチ栽培にいち早くチャレンジするという若さを背景にした行動力と、試験栽培や生産コストの把握を行なう中で、経営の安定に寄り添う技術であることを、しっかり確認してから組織化を進めるといふ、冷静な判断力を兼ね備えた素晴らしい実践集

団である。常に仲間たちと問題解決していく姿勢を崩さずに、より効率的な共同利用・共同作業体系を確立して欲しい」との評価と、今後の期待が述べられました。SCM利用組合の構成員の多くが、中標津経営研究会に以前から所属し、簿記帳や普及センターの経営診断を継続して、コスト意識の高揚に努めていたことも、この利用組合の成功をささえる下地になっているようです。

今後ともSCM利用組合の活躍

SCM
利用組合

が期待されます。



札幌にて活動事例を発表する中林氏



イヌゾリの試乗会には子供、大人と人気が集まりました

イヌゾリにも長い列



子供たちでも雪の上を上手に走らせています

第5回
中標津地区
冬まつり

地域みんなで冬を楽しむ

中標津地区冬まつりが二月十九日、協和氷上特設会場で開催され、地元地域を始め沢山の親子連れが冬の一日を楽しみました。この冬まつりは、地域の青年部員が中心となり、雪を利用した冬の遊びを皆さんで楽しみ、地域交流を通し活性化を図る事を目的に今年で五回目の開催。

当日は好天に恵まれ特設のリンクでは子供、大人の長ぐつアイスホッケー大会が行なわれ、すべったり、転んだりと笑いのたえない歓声が上がリ、スノーモビルや四輪バイクにも人気が集まりました。

また、地域に住む、ムツゴロウ王国からも沢山の参加があり、犬ゾリの試乗会が行なわれ、子供たちを楽しませてくれました。



歓声の長ぐつアイスホッケー

気持ち通りに足が進まず、大笑いの長グツホッケー



広い雪原をスノーモビルで探検、スピード感あふれる走りが何ともいえない

MILK

みるく・たいたいむ

TIME

将来の素晴らしい パートナーを見つける ためには

営農部長 浜谷 嗣人

昨年、大阪で開催された「北海道農業青年と関西女性の交流会」に事務局として初めて参加し、感じた事を簡単にまとめてみましたので参考にして下さい。

従来と異なり交流会に臨む女性の姿勢は真剣さが増し、変わってきております。この事は、バブルがはじけて女性の就職難と不況により、はじき出された部分によるものがあるうと思えますが、交流会に臨んでいる女性の姿勢が遊びじゃないよと言う感じが伝わって来ます。

そこで、これから将来をとにもする良きパートナー、または、酪農経営のアドバイザーを求めようとするなら、自分の考えている事を相手にどう伝え、心を掴むことが出来るかが大切です。昨年応募されて来ている女性の中には、四十歳の方や、三十歳を過ぎた女性も多数おられ、結婚に対して真剣に取り組んでいます。

従って、後継者の方も、自分の年齢にかかわらず、積極的に会員となつて参加して戴きたいと思えます。但し、こういう人、こういう家庭には、お嫁さんは来ません。

私を感じた中の、ごく一部をのせましたので参考にして下さい。

一、お嫁さんを労働者と考えている人。

二、親離れ、子離れがきちんと出

来ていない家庭。(親と子の関係が冷静に、そして対等に保たれ、明るく広く保たれているかどうか、女性が家庭に入つて行ける環境にあるかどうか)

三、古い、新しいにかかわらず、住宅、牛舎施設をとりまく環境整備は整っているか。(風呂、トイレの水洗化が出来ているか)

四、性格の暗い人、自分の仕事に信念と自信の無い人、社交性無く話題の乏しい人。

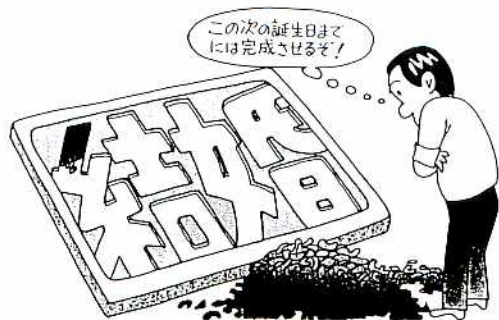
関西の女性に限らず、結婚を前提に考えて交際をする女性は、必ずといっていい程、住宅、環境整備、日常の仕事の内容などを見に来ますし、泊まって充分観察をしてから判断をします。

※現在、結婚対策協議会の先輩と
言うべきか、先進地の標茶、鶴居
の各相談員の方々の言うのには、

後継者が結婚に結びつかない要因の五割は、親にあるとおっしゃっています。いかに家庭生活、住宅環境を含めた親と子の結びつきの大切さが感じとれます。

お嫁さんが来たら、寛容と忍耐をもち、かつて自分が嫁さんに来たときの苦しみを味合わせること無く、責任と自覚の持てる息子、または娘の良きパートナーになれるよう、温かく迎えて教えてやって下さい。

これらを最低クリア出来ない人は、健康に充分気を付け、体力の続く限り頑張ってください。

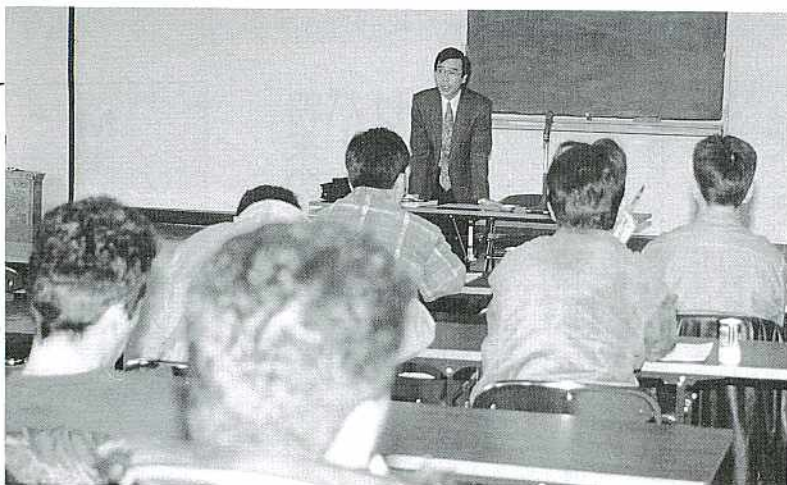


乳代精算、生乳原価を学ぶ

牛乳流通勉強会と生産費調査報告

農協青年部調査委員会

農協青年部調査委員会企画による牛乳流通勉強会及び生産費調査報告が二月十四日、農協大会議室で開催されました。



講師には、ホクレン中標津支所酪農課長・能呂芳則氏があたり、酪農家から生産された牛乳が乳代として精算される過程を説明。加工原料乳向、チーズ、飲用、生クリーム向などの乳成分取引きによる価値比率、取引き基準成分率や生乳共販経費の内訳、乳質評価による支払い乳代の仕組みなどが詳しく話されました。

午後からは、調査委員会が中心となり実施した。部門別原価計算の総体的な報告が、佐藤康彦調査委員長から行なわれました。

平成六年度原価計算を実施したのは五戸で、一酪の生乳を生産するのに直接費では約五十円から七十円の費用となり、労働費、資本利子、副産物、販売、管理費をカウントした販売原価では七十円強



から百円となる事が話されました。

また、この数字は五戸の酪農家での結果であり、経営体型や規模別、家族労働数などで分類し、数多い戸数の実施で平均を出す事が望ましいと付け加えられました。

委員会ではこの原価計算をもとに経営分析を行ない、戸々の経営に役立てて行く予定です。

兵庫県南部地震救援
募金のお礼
募金
1,128,337円
被災地へ

中標津町農業協同組合
代表理事組合長 三友 盛行

暦の上では立春も過ぎましたが、寒さ今だ厳しい今日この頃ですが、皆様にはますますご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。さて、先日のJ A災害救援募金につきましては、絶大なるご協力をいただきました。誠にありがとうございます。ございました。

皆様の善意は八十一万三千五百円にのびりました。

また、設置されております募金箱と青年部、婦人部、職員ならびに家族の協力を合わせまして、百十二万八千三百三十七円を全国農協中央会に設置している「兵庫県南部地震J A災害対策中央本部」を通じて、被災地のJ A組合員などへ贈呈されます。

皆様の温かいご協力をいただきまして重ねてお礼申し上げます。

理事会

の経過

第十四回理事会

開催日時 平成七年二月二十八日
開催場所 中標津町農協中会議室

〈議案〉

- 一、受精卵移植に係る受精料金の改訂について
- 二、平成六年度贈与税納税猶予に係る債務保証について
- 三、負債整理資金の貸付について
- 四、共済規程の変更について

酪農・畜産情勢は、ウルグアイ・ラウンド受諾による国際化の中で、不透明感を増しており、将来に向けての生産基盤を維持、拡大、中長期的な経営の安定実現のため、道酪対、地区酪対と連携し、次のスケジュールで要請運動を展開することになっていきます。

○第一次要請
二月二十二日～二十三日
○根室管内酪農民代表者集会

酪農・畜産政策 価格対策運動 平成7年度の スケジュール

- 三月四日、中標津町ホテル秀月管内二百人規模
- 地区特別要請
三月七日～十日
- 第二次要請
三月十四日～十七日
- 決起大会（酪農協会）
三月十五日札幌市
- 酪農協会要請
三月十六日～十七日
- 第三次要請
- 三月二十二日～二十四日
- 第四次要請
三月二十七日～三十一日
- 酪農協会要請
三月二十八日～三十日

- 五、固定資産の処分について
- 六、改良課外車両リースの更新契約について
- 七、良質乳生産対策について
- 八、畜舎の石灰乳塗布の実施について
- 以上、八議案について原案通り決定しました。
- 〈協議事項〉
- 一、平成六年度一月末における収支の期末見込みについて
- 二、東方沖地震災害に対する見舞金の取扱いについて
- 三、特産品直売所の設置案について
- 四、平成六年度末三月（期末）決

- 算外行事日程について
- 五、地区別懇談会の日程などについて
- 六、平成七年度酪農畜産政策要求積上げと中央要請運動について
- 〈報告事項〉
- 一、大韓民国肥料視察報告について
- 二、阪神大震災の救援募金について
- 三、平成六年度北海道酪農体質強化対策実施及びその他酪農情勢について
- 四、生乳生産意向調査の結果について



私たち同志会俵橋支部は、会員七人と少人数の会で話し合い、発足以来初めての1泊視察研修を行なう事になりました。

二月十七日、中標津空港から札幌に向かう予定でしたが、あいにく天候が悪く急きょ釧路駅まで車で行き、列車で札幌へ向かう事となりました。

列車には十年以上も前にしか乗った事がなく、札幌までの道のりが楽しく思われましたが、やっぱり五時間は長〜い、と思いながらようやく札幌駅に到着しました。

夜はJHBSの荒木さん達と会食を共にし、現在の種牛、今後の動向などの情報を話しながら一日目は終わりました。

十八日、朝起きると外は晴れているが風が強い様に思われ、テレビで天気予報を見ると札幌方面吹雪、中標津方面も天候がおもわしくないとの事、ようやく来たのにまた、帰りが心配でありましたが、視察は予定通り行なう事にし、JHBS竹田さんの案内で二戸の酪農家を見せてもらいました。

始めに町村牧場に行きましたが、着くまでが大変な吹雪でした。ここでは現在約三百頭を飼養し、搾乳牛は百五十頭、個体販売は行な

わず、搾りに重点をおいているとの事でしたが、札幌近郊であるため、畜産公害の面でさまざまな設備と配慮をしていました。給飼システムも三グループに分かれ、種牛については成分重視、体型は足、乳房の良い物を付けている。また

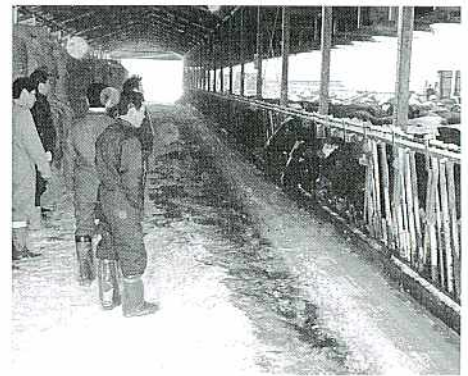
札幌方面 視察を終えて

発足以来、
初めての1泊研修

同志会俵橋支部 金子 安一

平均産次が二・七三にはおどろきました。

中田牧場では、土地面積二十五畝、借地三畝でコーンをやめ、乾草とロールパックで行なっていま



した。牛は経産牛四十二頭、未經産八十四頭で平均乳量九千八百リットル。今は乾乳が多く二十三頭くらいしか搾乳していませんでした。また、輸入牛で一万九千八百リットルという大きな牛がつかれており、餌も沢山食べると中田さんも驚いていました。中田さんは、日曜日はなるべく働らかないで休養をとる経営にしていると話しておりました。帰りは、空港に行く中標津方面天候調査中との事。皆んな帰れないのではと不安でしたが、なんとか帰ってこれました。

今回の視察は天気になやまされましたが、怪我もなく無事全員参加で終わる事が出来ました。また来年も行きたいとの事でした。

渉外体制導入で 広域推進

目標を大きく超える

地震、火災はJA建物更生共済です

農協では貯金の渉外体制一人を三人体制に強化し、貯金共済の複合渉外として、平成五年六月に金融共済課に属する渉外係を設置。

地域に幅広い機能と役割を提供し、かつJA経営に必要な事業量を確保する上から、広域推進を行なうてまいりました。

現在、長尾係長、堀田主任、奥田主任の三人で推進活動を行なっており、平成七年一月現在で保障額実績三十一億四千五百五十八万円(計画九億円)となっております。今後も皆様のお宅に貯金・共済推進にお伺い致しますので、ご協力をお願いします。

渉外係広域推進実績(共済事業)

保障額実績

平成五年六月から平成六年三月まで

四億九千九十九万円

平成六年四月から平成七年一月まで

三十一億四千五百五十八万円

暮らしの

知恵森



チーズを 考える

北根室地区農業改良普及センター

乳製品の代表ともいえるチーズ。世界中には原産だけでも千種類ともいわれるほど多種多様なチーズがあり、その種類によって製法も違います。また同じチーズでも自家製のもの、それぞれ微妙な違いがあります。このようにチーズの世界は奥が深いものです。

〈チーズの歴史〉

古い伝説によれば、昔、アラビアの商人が羊の胃袋に乳を入れ、持ち歩いてきたところ白い塊りと液体に分離しました。この白い塊りこそがチーズです。日光で温められた乳が、胃袋に含まれる凝乳酵素の作用により固まり、ラクダ

に揺られてチーズと水分(ホエイ)に分れたのです。これが中近東から貿易商によりヨーロッパに広まりました。

そしてチーズは長い歴史をもち地方特有の土壌、環境条件、原料乳などの違いにより、独特なものが生まれてきたのです。

フランスには、フェルミエというチーズを個人製造している農家があり、主に「お祭り用」としてチーズを作っているそうです。伝統的なチーズの品質を守り後世に伝えるため、その製法や技術に対し、法的に保護や規制をするAOC(原産地呼称制度)という制度

があり、これによって風上や食文化が守られているそうです。

日本の食文化の中ではチーズはまだ新しいものですが、チーズの文化を知り、日本独自の食にチーズを取り入れることもおもしろいことでしょう。

〈健康維持にもひと役〉

チーズの主な栄養成分はたんぱく質、脂質、ビタミンA、B群、鉄分、カルシウムであり、中でもカルシウムはチーズ二切れ(約三十五g)に二百mg含まれており、それも母なるミルクと同様、吸収されやすい性質を持っています。健康維持のためにもチーズの奥深い味わいにふれてみましょう。

● チーズ料理ワンポイント

○ 和風にチーズ

チーズを拍子木切りにし、鉄火巻のように巻くチーズのおすし。子どもにも喜ばれます。

○ ドレッシングにチーズ

カッターでチーズやブルーチーズを細かく砕いて混ぜると、変わった風味が楽しめます。

○ ラーメンにチーズ

思いの外おいしい組み合わせです。

チーズの一般分類表

● チーズタイプと種別

ナチュラルチーズ	軟質チーズ	非熟成(フレッシュ)
		細菌
		熟成
		カビ(白カビ)
	半硬質チーズ	細菌熟成
		カビ熟成(青カビ)
	硬質チーズ(細菌熟成)	乳酸発酵(チーズアイなし)
		プロピオン酸発酵(チーズアイあり)
	超硬質チーズ(細菌熟成)	
	ホエーチーズ(主に軟質)	
プロセスチーズ		

200mgのカルシウムを摂るには



スライスチーズをのせてトロリと。

その他、チーズをおろしてカレーやスープにふり入れたり、バター、牛乳、ワインなど加え練ると、手づくりのチーズスプレッドやデ IPP が作れます。

料理に工夫しチーズを家庭に取り入れてみましょう。

サホロでラブシュプール 独身者スキーツアー

農協青年部独身者委員会によるスキーツアーが2月4日、5日サホロスキー場で開催されました。

今回のツアーには10人が参加（男性6人、女性4人）。晴天に恵まれたサホロのゲレンデでシュプールを描き、夜は帯広市内で夕食を交えての交流会が行なわれました。

翌日は糠平スキー場に立ち寄り、夕方までスキーを楽しみ、午後7時全員怪我もなく中標津に到着。

ここで解散の予定でしたが、アフタースキーに全員夕食へと元気に出かけて行きました。



白いゲレンデに青い空、ロマンスのページを作りたい

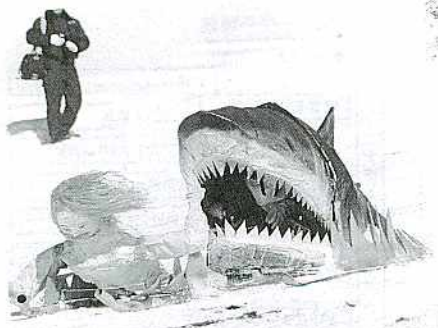
フ オ ト ア ル ズ ム

ユニークなソリでパフォーマンス

開陽台自作ソリ大会



冬を楽しむと酪対開陽支部は2台のソリを作成、健闘しました



ジョーズ出現、人が食べられそうです

第7回、開陽台自作ソリ大会が2月19日、開陽台育成牧場内特設会場で開催され、16台のアイディアを凝らした自作ソリがスピード部門、パフォーマンス部門に出場。

この日は朝から青空が広がり、町内外から沢山の家族連れが見物に訪れ、スピード感あふれるソリや、転倒したり途中で壊れてしまうソリに歓声が上がっていました。

また、競技後には、一般参加によるチューブすべり大会やピンゴゲーム、スノーモビルの試乗会も行なわれました。

青年ヘルパー 道央研修開催

酪農ヘルパー利用組合



福屋修三牧場にて説明を受ける



ハッチャキ体操に参加、カメラに向かいズームイン

酪農ヘルパー利用組合では、緊急対応などで稼働する組合員後継者による青年ヘルパーの視察研修を、2月22日から24日に実施しました。

視察地は、恵庭市にあるコーンズ・エージ(株)道央事業所、近隣の福屋牧場(2件)、橋田牧場を回り、トラクターの組み立て作業や、酪農家では近代的施設、手作りによる低コスト牛舎、E×牛、十回連続千ポンド突破牛などを見学。

また、テレビでお馴染み、どさんこワイドやズームイン朝のハッチャキ体操に参加するなど楽しい研修となりました。

地場産品メニューに挑戦 婦人部料理講習会

2月21日(月)、雪印中標津工場調理室にて、婦人部料理講習会が開催されました。

今年は、地場産品を使ったメニューに挑戦。「じゃがいもと牛肉の重ね焼き」を含めた5品を普及センターの須田生改を講師に、調理を開始しま



地場産品を材料に料理に挑戦する参加者



見た目もグーですが味はさらにベリーグーです

した。

参加者は16人と、ちょっと少なめでしたが、それでもにぎやかな雰囲気が進められ、その後、農村ホリデー推進委員の方々と交流を兼ねた試食会へと移りました。

出きあがった料理を囲んで、話しも弾み、楽しいひとときとなりました。

2月の
組合日誌

- 3日 馬鈴しょ振興会役員会
- 4日 乳牛改良同志会第24回定期総会
- 6日 酪農対策協議会、乳質向上委員会
- 7日 内部審査(購買部9日まで)
- 8日 第7回役員協議会
- 14日 青年部牛乳流通勉強会
- 17日 第2回役員定数審議会
- 18日 生産委員会
- 20日 青年部青年講座
- 24日 第6回管理購買委員会
- 27日 農村議員と農協理事者との懇談会
- 〃 なかしべつフーズ(株)取締役会
- 〃 婦人部哺育育成研修会
- 〃 てん菜生産振興会役員会
- 28日 第14回理事会

JAグループのテレビ番組

(厚生省中央児童福祉審議会推薦)

くらしの
探検隊



3月11日(土)	東野英心 「優駿の大地に生きる」 (北海道・浦河町)	力強く大地を駆けるサラブレッドたち。この華やかな競馬界を支える日高地方には、数多くの生産農家があります。家族で力を合わせて馬を慈しみ育てるその夢と、地域の絆が育む競走馬生産のロマンを探検します。
3月18日(土)	和泉雅子 「北の大地を“ウイズ・ユー”」 (北海道・美瑛町)	コムギなどのパッチワーク状の畑が美しい美瑛町。熊谷留夫さんは「この景観は自分たち農家がつくりあげたものだと知らせたい」との思いから、ペンションも経営。都会からの宿泊客とのふれあいを楽しんでいます。
3月25日(土)	和泉雅子 「心はひとつの羊と雲の丘」 (北海道・士別市)	ヒツジのサフォーク種を核にした街づくりをすすめる士別市。サフォークは、ニット製品の商品化や堆肥を利用した有機栽培などで多目的利用されています。「世界のめん羊館」などの施設も充実、市民あげでの取り組みを探検。

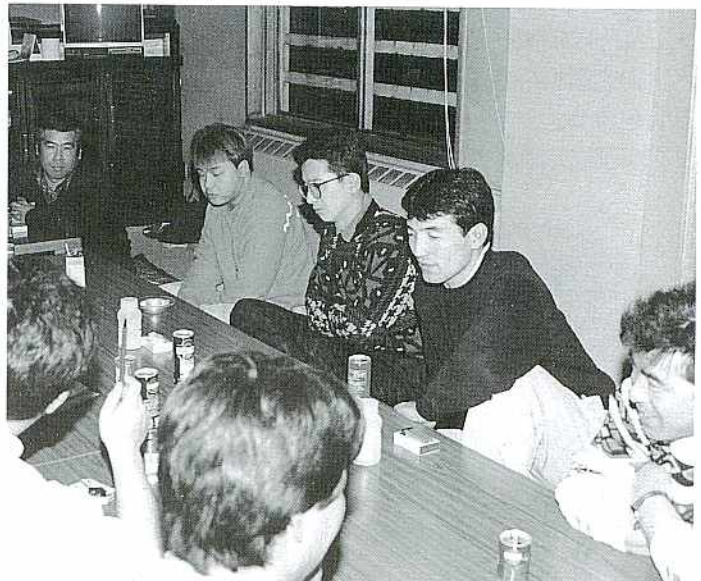
北海道放送(土) 9:30 提供●JAグループ/制作■家の光協会

自分たちの家族、
生活を考える

青年部、理事者との懇談会

青年部、農協理事者との懇談会が2月2日、武佐支部を皮切りに各支部で開催されました。

今年、「21世紀のライフスタイル」◎親・息子・嫁との明るい21世紀をテーマに行なわれ、家族経営の中で親・息子・嫁がどのようにしたら仕事や生活がトラブルなく、将来に向け継続して行けるのかをさまざまな角度からお互い意見交換がおこなわれました。



青年部当幌支部での懇談会(農協和室)